



当介護療養病棟におけるコンチネンスケアの取り組み  
～尊厳ある日常生活の提供を目指して～

医療法人財団利定会 大久野病院看護部 2階介護療養病棟

<はじめに>

おむつを着用しない生活を送ることは人としての普遍的欲求であり、おむつの着用は社会活動の意欲低下や、自らの存在価値否定に直結し、在宅復帰の大きな妨げとなりえる。

当病棟は介護療養型医療施設強化型Aの算定であり、重症度割合約70%、処置実施割合約70%、ターミナルケア約15%と介護度が高い。しかし、おむつ（リハビリパンツを含む）着用患者が約90%を占めていることについては問題を感じていた。

そこで我々は患者の尊厳を重視し、排泄に関するスタッフの意識改革と、おむつ着用が最小限となるような取り組みを開始したので報告する。

<方法>

- ・個人の排泄パターンの観察と排泄ケアの適正化
- ・OTとの合同コンチネンスカンファレンスを週1回以上実施
- ・コンチネンスケアの勉強会実施
- ・おむつ着用率、おむつ離脱率の測定
- ・トイレ誘導および介助とおむつ交換時間比較
- ・スタッフのコンチネンスケア意識調査

<結果・考察>

取り組みの後、コンチネンスケアへのスタッフの意識改革がなされ、おむつからリハビリパンツへの変更や、トイレ誘導率、布パンツ（排泄自立時着用のもの）使用率が上がり、排泄の質向上につながった。

これは、スタッフが共通の視点で排泄ケアを捉え、同じ方法で排泄ケアに取り組むことが出来た結果であると考えます。

更に、おむつ交換や、パット交換に費やしていた時間は、トイレでの排泄ケアの時間やベッドサイドにおける他のケアに移行した。

また、おむつコストの削減、医療廃棄物減少にもつながった。

<おわりに>

当病棟におけるコンチネンスケアへの取り組みは開始したばかりであるが、患者の尊厳と在宅復帰において重要な取り組みであると位置づけ、今後も継続してゆきたい。

